わが街の文化遺産 札幌軟石　札幌は“石の街”だった!?

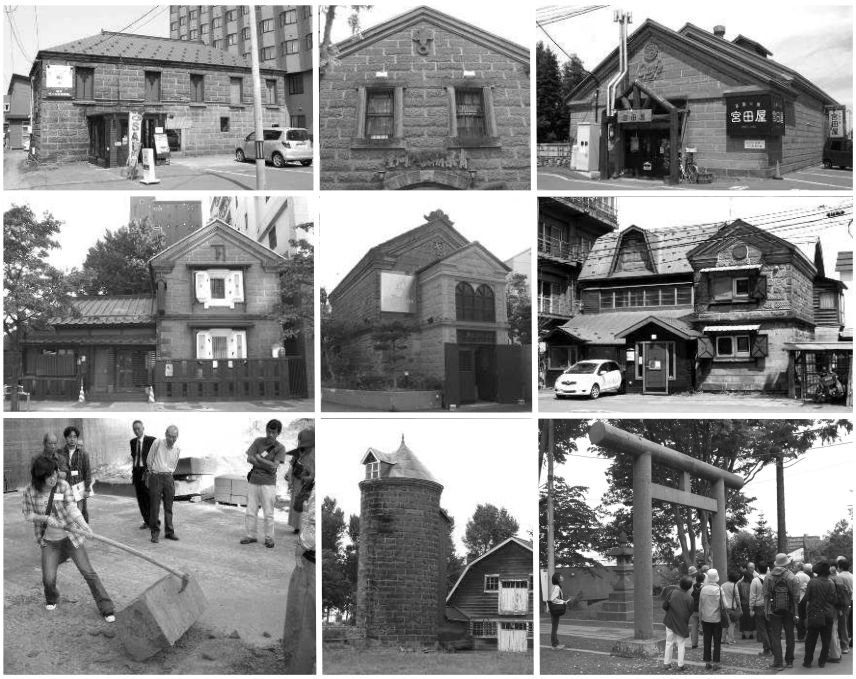
札幌軟石はいま、市内にどれだけ遺っているのだろう…？　意外と知られざるその実態を、2005 年以来、市民グループ「札幌建築鑑賞会」が調べてきました。「札幌軟石文化を語る会」との共同による『札幌軟石発掘大作戦』です。毎年30 余名のメンバーが地図を片手に、軟石の建物や門塀、寺社の工作物などを探し歩きました。その活動が 2015 年、10 周年の節目を迎えました。これまでの成果の全体像を、おもに建物を中心として、 写真と地図でご紹介します。

散策の場として整備されたかつての採石場「石山緑地」

■ 札幌軟石の誕生と利用

札幌軟石は、地質学的には「支笏溶結凝灰岩（しこつようけつぎょうかいがん）」といいます。今から 4 万年前、のちに支笏湖をつくることになるわが国でも最大級のカルデラ噴火が北海道で起こりました。幾層もの軽石や火山灰が広い範囲を覆うとともに、火砕流が苫小牧～札幌間の平野を埋め尽くしていきました。このときの火砕流堆積物が冷え固まってできた岩石が支笏溶結凝灰岩で、現在の南区石山付近をはじめ 豊平川本支流の広範な流域に分布しています。

石山地区の溶結凝灰岩は、明治初期の開拓時代に発見され、やがて**札幌軟石**と呼ばれるようになります。他の石材に比べ、加工しやすく耐火と断熱に優れていたことから、建築などの資材として用いられ、札幌の街づくりにも大きな役割を果たしてきました。周辺の宅地化とともに石山での採掘は 1978 年に終わりを告げますが、**札幌軟石**は現在も南区常盤地区の真駒内川上流域で生産されています。



「札幌軟石発掘大作戦」の調査物件と活動風景

■ 街なかに残る札幌軟石

都市化にともない**札幌軟石**は往時の姿を消しつつありますが、それでも街のいたるところに名残をとどめ、歴史の重みと味わいを感じさせてくれます。『札幌軟石発掘大作戦』では、この 10 年間に建物だけで 400 棟あまりを確認しました。札幌市内にこれだけの軟石建物が存在していることを明らかにできたのは、市民活動の貴重な到達点と考えます。

建物の分布を示した地図を俯瞰すると、それぞれの地域の特徴や土地柄が伝わってきます。**札幌軟石**は“その土地ならでは”の風景を形づくる資産であるとともに、街の歴史を読み解く手がかりにもなっています。

展示関連イベント「サイエンス・フォーラム in さっぽろ」

6 月 25 日（土）14:00-16:00　札幌市中央図書館 3 階 講堂

話し手：杉浦正人氏（札幌建築鑑賞会代表）　※無料・当日先着 150 名

札幌市中央図書館

札幌市中央区南 22 条西 13 丁目 1-1　電話（011）512-7320

※会場へお越しの際は 公共交通機関をご利用ください
　市電「中央図書館前」停より徒歩 1 分　じょうてつバス「南 21 西 11」停より徒歩 5 分

SAPPORO